

北九州市立第1・第2緑地保育センター 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日(水) 13:00~16:30
- 2 場 所 小倉北区役所(西棟)7階 特別会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 阿南構成員、河崎構成員、大塚構成員、
田中構成員、田村構成員、小林構成員
(事務局) 子ども家庭局認定管理担当課長、施設調整担当係長

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出
- 応募団体(社会福祉法人 北九州市福祉事業団)より提案概要に関してプレゼンテーション及び質疑応答を実施

【以下、質疑応答内容】

- (構成員) 幼稚園や保育所のお泊まり保育での利用が中心だと思うが、現在何ぐらいの園が利用しているのか。
- (応募団体) 第1・第2あわせて市内の幼稚園・保育所の9割が利用している。
- (構成員) 高校生のインターンシップの受け入れや、障害児との交流もあり保育現場としては、大変ありがたい取り組みだと思うが、今一番、困っていることとして、高齢者と若い人、子どもたちという世代間交流の課題がある。そのような取り組みについて何かお考えがあれば聞かせてほしい。
- (応募団体) 幼児のいる家庭の方が自由に遊びに来ることができる一般開放デーという取り組みがある。おじいちゃんやおばあちゃんも参加できるようにしたり、0歳から小学生まで色々な年代層のこどもが参加できるようにしている。その中で、おばあちゃんとかがいらっしゃれば、お母さんなどに育児のアドバイスをされている。
- (構成員) 今の子どもたちにとって大切な取り組みだと思うので、ぜひ続けていたいただきたい。
- (構成員) 新規で夜まで日帰り保育の提案をいただいているが、コロナ禍は宿泊ができなくて、今年度再開しても、日帰りでもいいとか、実際、日帰りしかやっていないという園も何件あるか。

- (応募団体) 昨年度と比較して、日帰りではどうにかできないかといわれる団体は大体1割弱ぐらいある。もりのいえの場合で、通常、宿泊は150園ぐらいだが、10園以上は宿泊を控えたいという団体がある。ただ、できるだけ長い時間経験したいという要望があり、園側としても日帰りならどうにか対応できるのではということで何度も相談を受けているので、ニーズに応える為に来年度から取り入れたいと考えている。
- (構成員) 医療的ケアのお子さんや障害児のおさんが含まれている園にとっては、ありがたいご提案と思う。
- (構成員) 長野緑地には遊具等がいっぱいあるが、お泊まり保育の時、どのあたりまで散策するのか。
- (応募団体) もりのいえの周辺のビオトープを活かした自然散策と、山の中の散策をメインにしている。1ヶ所だけ公園の遊具がありそこで遊ぶことはある。
- (構成員) 自然と隣合わせの施設だと思うので、夏の暑い時期や、冬の時期はなかなか活動が難しいと思うが、閑散期の時期の運営はどのように対応されているか。
- (応募団体) 今年は特に暑かったこともあり、市の教育委員会から暑さ指数が高い場合は外の活動をやめましょうということになっていたため、それに準じた取り扱いをした。ただ、やはり緑地にせっかく来ていただいたのなら、外での体験もしていただきたいので、時間や暑さの状況をみながら、外に出たり中で活動したりした。寒いときは外で遊び回ったり、雪が降っていたら雪だるまを作ったり、雪合戦したりしている。真夏の場合は、近くに水を溜めるところがあるので、水遊びのプログラム内容を取り入れて、暑さ対策をしている。
- (構成員) 子ども達が宿泊や遊びにきた際、保護者とは特に関わりはないとは思いますが、子どもを預ける側として、どんな事をしているのか確認しておきたいと思う。何か取り組んでいることがあれば教えてほしい。
- (応募団体) 宿泊の1ヶ月前に、園と打ち合わせをする。その時に心配なお子さんがいたりとか、保護者の方から何か質問はないかということは、その打ち合わせのときに聞いている。園側の先生には、資料を渡しているの、園の先生が保護者に資料などを提供していると思う。
- (応募団体) その他にも、保護者の方で初めて子ども達を泊まらせるから心配される方がいたり、新しい場所が苦手な子どももいたりするので、その時は、事前に園の先生方に写真を撮って帰ってもらったり、安心して泊まれるよう、事前にお母さんと子どもに一度、施設を見に来てもらうような対応もしている。実際に見に来て、私たちのスタッフの顔も見ていただくことで、子どもが来たときに、「この前来たね」と言うことで、安心して利用できることが今年もあった。大体、毎年2、3件はある。

- (構成員) そのような周知は、どこでわかるのか。保育園等に周知していただいているのか。
- (応募団体) 打ち合わせのときに質問があればお答えしている。
- (構成員) そのような取組みがあるのであれば、敏感な子や発達障害の子が多いので、保育園からだけでなく緑地保育センターの方とかからも周知していただけたらと思う。
- (構成員) 建物が少し古いというイメージがあるが、老朽化とかそういった点はどうか。
- (応募団体) 第1緑地保育センターは、来年で50年を迎える施設だが、いろいろ改装し、使いやすいように整備している。外を見ると古いが、中に入ると明るいですねとよく言われる。
清掃も心がけており、古い部分は少しずつ修理しながら、快適に過ごしていただけるようにしている。トイレの数等についての対応は難しいが、子ども達が本当に安心して、快適に過ごしていただけるよう、環境の整備は努力している。
- (構成員) 事業団の中で、緑地保育センターに異動するとなった場合、どのような対応をされているのか。また、緑地保育センターでの体験は確かに特別なものだが、保育という観点でいくと、それを日常に落とし込んでいけるとなるとお良いと思うが、その対策として何かプログラムのようなものを先生方にされているか。
- (応募団体) 初めての職員に対しては、宿泊が始まる前までに、4月の半月ぐらいで、みんなでプログラムを考え、レクチャーを行い、両緑地保育センターが集まって、こうやったらいいよとかアドバイスを行うようにしている。また、最初は1人で子ども達を連れて行くことが心配な時もあるため、数人でグループを組んで楽しみながら活動していくようにしている。
- (構成員) コロナ禍を経て、オンラインに関することも進められていると思うが、今後、打ち合わせをオンラインで行うということも考えているか。
- (応募団体) 利用者や園のご希望に沿って、そういうこともしていきたい。現在は、電話での打ち合わせは行っているが、初めて泊まるという方は、現地に来て、現場を見てという方が多い状況である。
また、複数園の合同利用の場合は、どの園がどういう順番で行うのか等、実際に現地に来ていただかないと、なかなか意思の疎通が取れないというのもある。単独利用で、園に長年の経験がある場合は柔軟に対応している。

- 構成員は、提案概要のプレゼンテーション及び質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

【以下、意見内容】

- ・ こどもまんなか社会の実現に向け「一人ひとりの笑顔のために」をスローガンにしており、基本方針も明確である。
- ・ 保育所、児童館、児童発達支援センター、総合療育センター等、子どもに関する施設の運営実績が豊富である。
- ・ 一般開放デーやそれぞれのニーズに合った促進期間を設けている。
- ・ 機械警備業務や消防設備保守点検業務、清掃業務などについて、法人本部で一括入札することで、事務の集約化や経費の削減に努めている。
- ・ 緑地保育センターでの特別体験・自然体験が、日常に繋がるような取組みがあるとよい。

- 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

【以下、総合的な所見内容】

- ・ 日常とは違う自然体験や室内プログラムが充実している。
- ・ 長年の運営実績から蓄積されたノウハウにより、様々な専門職の知識や指導技術がある。
- ・ 新規提案事業もあり、時代に対応した取組みや提案がなされている。
- ・ 利用者に応じ、プログラムや事前打ち合わせなど、柔軟に対応していることは評価できる。
- ・ 自然体験が日常に繋がるような取組みがあるとよい。

- 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。